

迎合主義が大学デビューに与える影響

奥村壮太郎^a 小野里慎悟^b 小坂理世^c

要約

本研究では大学デビューに着目し、「迎合主義の傾向が強いほど大学デビューをする」という研究仮説を立てた。大学生を対象にしたアンケート調査で得られた 328 件の有効回答について片側検定で 42 個の重回帰分析を行った結果、22 個の研究仮説に整合的で 10%以下の有意水準で有意な結果を得ることができた。一部有意な結果を得ることができなかった世界観の質問があったが、この質問に関するサンプルの偏りによって生じたものであると考えた。本研究の結果は、今後の研究でさらに強い研究仮説への支持が得られれば、身だしなみを整える消費財のマーケティングに役立てることができると思う。

JEL 分類番号 : D9

キーワード : 世界観, 迎合主義, 大学デビュー,

a 奥村壮太郎 慶應義塾大学経済学部 k2.ryo.sotaro.0514@keio.jp

b 小野里慎悟 慶應義塾大学経済学部 onoshin@keio.jp

c 小坂理世 慶應義塾大学経済学部 rise_kosaka@keio.jp

1. イントロダクション

誰しも大学生になったら一度は大学デビューという言葉聞いたことがあるのではないだろうか。高校時代に地味で目立たなかった人が、大学生になって数ヶ月で派手な格好になっている。このことを揶揄するような場面で「大学デビュー」という言葉が使われるのを、筆者は何度か耳にしたことがある。そこで我々は大学デビューの定義を明確化させたいうえで、そもそもどのような人が大学デビューを行うのかどうかに興味を持った。

高校生のときと比較して、大学生になって以降は、周囲の環境や人間関係が大きく異なっている。高校時代の身だしなみや行動のまま大学生活を送り続ける者とそうでない者がいるなかで、後者に共通する性質について着目した。本研究では、自分の主義主張をはっきり持たず、周囲の意向を受け入れる人々こそ、自分の周囲の環境に順応していくと仮定した。そして、そのような順応を通して、大学生らしい姿へと変貌していき、その結果として、大学デビューをしていくのではないかと仮説を立てた。

本研究では、「迎合主義の傾向が強い人ほど大学デビューをする」という研究仮説のもとに、迎合主義の世界観を持つ人々の、高校時代と比較したときの大学での行動について調査した。ここでの迎合主義は、「自分の主義主張をはっきり持たず、周囲の意向を受け入れ、それに合わせるような世界観」とする。また本研究において、大学デビューとは「高校生の頃と比較して、大学入学以降に見た目や言動を大きく変化させる行為」と定義する。

迎合主義に近い言葉として、「大衆迎合主義」がある。「大衆迎合主義」とは、有権者を「エリート」と「大衆」に分けたうえで、2つを対立する集団と位置づけ、「大衆」の権利こそ尊重されるべきだと主張する政治思想を指す。その一方で、本研究の世界観である「迎合主義」は、自分の主義主張持たず、周囲の意向を迎え入れ、それに合わせるような思考傾向を指している。なおこの場合の周囲は、多数派の意味である。

本研究の意義は、大学生が身だしなみを整える消費財のマーケティングに応用できることであると考えられる。例えば本仮説が将来の研究でさらに強く支持されたとき、春先に迎合主義を惹きつけるような広告を打てば、ヘアセット剤やメイク道具を効率良く売ることができると予想することができる。

2. 研究方法

研究方法として、アンケート調査を行った。Google Form で全 26 問のアンケートを作成し、Instagram や LINE 等の SNS を用いて拡散した。集計期間は 2022 年 9 月 3 日 17 時～2022 年 9 月 5 日 17 時の 48 時間で、大学生を中心に 329 件の有効回答を得た。

アンケートの冒頭で、性別と学年を尋ねた。質問 1～2 は経済統制に関する質問である。質問 3～8 は世界観である迎合主義の強度を測る質問で、全ての質問において「非常にそう

思う」から「全くそう思わない」までの6段階の選択肢を用意した。以後質問3~8で聞いた世界観を各々世界観①~⑥とする。ここで、本研究で使用する「世界観」の定義は、「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質についての認識、感情、判断に関する基本的な過程と枠組み」(Hiebert 2008, 訳語が大垣・田中, 2018による)とする。質問9は規範に関する質問である。質問10~24は経済行動である大学デビューに関する質問で、高校時代と比較したときの、見た目に関する行動の変化や大学における立ち振る舞い等について尋ねた。質問10~22に関しては、先行研究(中臺麗・石井琴子・関鋼二・泉水紀彦 2016)から引用した。

回帰分析の方法として、まず世界観については、「非常にそう思う」を6、「全くそう思わない」を1として6段階評価で数値化し、質問7以外の全ての質問について、値が大きいほど迎合主義の傾向が強くなるように設定した。次に経済行動に関して、対人関係に関する項目については、「はい」か「いいえ」で答える二者択一の質問について「はい」の数を集計した。数が多いほど大学デビューをしている。以後「はい」の数をまとめた数値を経済行動①とする。外見や流行への興味関心に関する項目については、「とても当てはまる」を6、「全く当てはまらない」を1として、6段階評価で数値化し、こちらも大学デビューをしているほど値が大きくなるよう設定した。以後この項目についての経済行動をアンケートで聞いた順に経済行動②~⑤とする。その他、外出時の身支度にかかる時間の変化や飲み会の出費については、相場に見合った尺度で設定し、こちらも大学デビューをしているほど値が大きくなる。これを経済行動⑥~⑦とする。世界観を測る質問から得られたデータと、可処分所得及び規範を測る質問から得られたデータを説明変数、経済行動に関する質問から得られたデータを被説明変数として重回帰分析を行なった。

3. 研究結果

今回のアンケート結果を数値化し、平均値、標準偏差、最大値、最小値、中央値、サンプル数の記述統計量を計算した。

表1 記述統計量

	平均	標準偏差	最大値	最小値	中央値	サンプル数
世界観① (他人からアドバイスを、吟味するか鵜呑みにするか)	3.936	1.348	6	1	4	n=328
世界観② (自分の意見をはっきり持ち、他人に強く主張するか)	3.657	1.393	6	1	4	n=328

世界観③ (コミュニティ内イベント参加の投票において、内容に依らず、周囲の票に同調するか)	3. 31	1. 519	6	1	3	n=328
世界観④ (SNS で友人のある映画に関する投稿を頻繁に見かけます。その映画の内容についての情報がない場合でも、その映画を見ようと思いませんか?)	2. 517	1. 386	6	1	2	n=328
世界観⑤ (留学先の環境に合わせて身だしなみを変えるか)	2. 547	1. 416	6	1	2	n=328
世界観⑥ (周囲に合わせて携帯の機種変更をするか?)	3. 614	1. 51	6	1	4	n=328
経済行動①	4. 474	2. 22	9	0	4	n=328
経済行動② (どの程度ファッションに力を入れているか)	3. 976	1. 186	6	1	4	n=328
経済行動③ (オシャレなエリアやお店に出かけているか)	3. 742	1. 356	6	1	4	n=328
経済行動④ (流行を気にして情報を集めているか)	3. 377	1. 317	6	1	3	n=328
経済行動⑤ (新しいヘアスタイルにチャレンジしているか)	3. 278	1. 556	6	1	3	n=328
経済行動⑥ (高校生と比べ大学生になって、外出のために身なりを整える時間は増えたか)	4. 824	2. 115	8	1	5	n=328
経済行動⑦ (1ヶ月でどれくらいのお金を飲み会にかけるか)	3. 334	1. 839	7	1	3	n=328

片側検定で重回帰分析における有意水準 10%以下で有意な結果を表に示した。

表 2 重回帰分析結果

説明変数(世界観)	被説明変数 (経済行動)	係数
世界観①	経済行動④	0.0788*
世界観③	経済行動①	0.1612**

〃	経済行動②	0.1113***
〃	経済行動③	0.1037**
〃	経済行動④	0.1594***
〃	経済行動⑤	0.1110**
〃	経済行動⑦	0.1039**
世界観④	経済行動①	0.1110***
〃	経済行動④	0.1362***
〃	経済行動⑤	0.1255**
〃	経済行動⑦	0.1598**
世界観⑤	経済行動①	0.1135*
〃	経済行動⑦	0.0220**
世界観⑥	経済行動②	0.1256***
〃	経済行動③	0.1649**
〃	経済行動④	0.1364***
〃	経済行動⑤	0.0963**
〃	経済行動⑥	0.2653***

注) 片側検定において, ***有意水準 1%, **有意水準 5%, *有意水準 10%で有意であることを表す.

4. 考察

重回帰分析の結果, 「迎合主義の傾向が強いほど大学デビューをする」という研究仮説について, 一部の質問において研究仮説に整合的で有意である結果が得られた. 迎合主義な人は, 周囲の大学生デビューしている人に合わせて自身も大学生デビューする傾向があるのである.

有意な結果が得られた世界観と経済行動の組み合わせを見ると, 経済行動については全ての質問に対して最低1つは有意な回帰式があるが, 世界観については世界観①, ③, ④, ⑤, ⑥でしか有意な結果を得られていないことがわかる. 世界観②「あなたは自分の意見をはっきり持って, 他人に意見をしっかり主張しますか?」で有意な結果が得られなかった理由として, この質問に関するサンプルの偏りを挙げる. アンケート調査対象の大半は慶應生である. 慶應生の多くは, これまでの人生において, 周囲よりも学力が高く, 自分で考えた意見を持っていることが多かったと考えられる. つまり迎合主義の如何にかかわらず, 実験対象者について, 意見をはっきり持って主張する人が多かったことが予想できる. その

ような理由から有意な結果を得られなかったと考える。

また有意な結果を得られた世界観の質問の中でも、特に世界観⑥「スマートフォンの機種に関して、元々A という機種を使っていましたが、周りの人の多くが B を使っているとします。機種変更の機会があった場合、A から B に変更しますか？」は、6つの経済行動の中で4つも1%水準で有意な結果を得られている。特にこの質問において多くの有意な結果が得られた理由として、携帯の機種変更が特に迎合主義に関係していることを挙げる。例えばAndroid と iPhone を比べたとき、機能面で大きな差はない。それにもかかわらず携帯の機種変更をする理由は、周囲に合わせるからという機能以外の面が大きいと予想する。つまり携帯の機種変更と迎合主義は密接に関係していると考えられる。

5. 結論

迎合主義の世界観から大学生デビューに関する経済行動を分析した結果、研究仮説に整合的で有意な結果を得ることができた。一部有意の出なかった世界観の質問があったが、サンプルに偏りがあったことを原因に適切に迎合主義の有無を聞くことができなかったと考えた。今回迎合主義の迎合する対象を多数派と定めたが、現実生活ではその場に応じて迎合する対象を変えることが多い。そのような対象の区別を細かく行いながら今後さらなる調査を進めていきたい。

引用文献

- 中臺 麗・石井 琴子・関 鋼二・泉水 紀彦, 2016. 『大学デビュー行動が適応感に及ぼす影響の検討』
- 大垣昌夫・田中沙織, 2018. 『行動経済学』, 有斐閣